

## 第2回 ふくいの森林・林業のあり方検討会における主な意見

### <新ふくいの森林・林業基本計画（仮称）の骨子（案）に対する主な意見>

#### 【森を活かすプロジェクト】

- ・より効率的に木材生産が可能となるよう、林業事業者が情報共有できる連絡協議会の設立を検討してほしい。
- ・ゾーニングについて、本計画では考え方を示せば良いが、地図上で具体的に示すなど事業実施段階での活用の仕方を検討してほしい。
- ・日本中に似たような樹種、森林が多くあることから、再造林する際には、他県と同じようなものではなく、福井県として特徴のある森を作っていくよう方針を打ち出してほしい。
- ・木材供給拡大のための路網整備について、路網密度などの目標値の設定をしてほしい。
- ・施業地の条件にもよるが、施業地を確保できれば、福井県内の林業事業者が県の目標としている生産性の実現は可能である。
- ・主伐地においては、成長量などから地位指数を把握し、今後の林業経営や災害対策に活用できるよう調査・分析を進めてほしい。

#### 【木を活かすプロジェクト】

- ・県外の人が多く訪れる恐竜博物館ではあまり木材が使われていない。人目に触れる場所での県産材のアピールが重要である。
- ・県産材を使用した施設や玩具などの事例集を作成して情報を発信したり、県独自のグッドデザイン賞のような表彰事業を導入したりすると県産材の利用が広がるのではないかと。
- ・県産材の利用促進については、公共や民間施設での木造・木質化などが計画期間内でどれくらい進んだのか把握してほしい。
- ・住宅の新築やリフォームの支援は、全国的に使いづらい、書類申請が煩雑などと工務店から聞いており、事務手続きの簡素化やPR・普及のやり方について検討していく必要がある。
- ・県産材の商品開発については、消費者に選ばれるような家具・建具や県内企業と連携した新しい商品の開発に取り組んでほしい。
- ・木材利用のイベントなど消費者に向けて発信するものについては、マーケットに敏感な民間を主体にして進めるのが良い。
- ・公共施設は木造で建てるべきことを広く説明した上で、一定量以上の木材を使用するよう強く働きかける取り組みなどを行い、行政が県産材をもっと積極的に使う姿勢を見せるべき。

#### 【森に親しみ、森を守るプロジェクト】

- ・香福茸の生産を続けていくためには、しいたけ原木の安定供給が大事である。現場の奥地化や原木の大径化により確保が困難になってきており、遊休地や山ぎわでクヌギなどを植林し、容易にしいたけ原木を供給できる体制を確保していく必要がある。
- ・効率的なシカなどの捕獲活動とジビエ利用を進めることにより、農業分野と連携した地域活性化を検討してほしい。

#### 【骨子全般に関する意見】

- ・実績がある会社だけでなく、チャレンジしている人や発信力のある若手、小規模でも頑張っている人達を支援し、さらに育成することで、県内の人材を増やし活かしてほしい。
- ・プロジェクトの中でも様々な施策があるが、最終的には各項目が関連しているので、総括するポンチ絵があると全体の流れが掴め、分かりやすくなるのではないかと。
- ・最終案ではより具体的な戦略を記載するとともに、短期や中期の視点を持つてできるだけ目標数値を設定し、5年後にしっかり検証できるようにすべきである。